

病害虫発生予察情報予報第9号(1月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

| 作物名 | 病害虫名 ^{注1)} | | 1月の予想発生量 ^{注2)} (平年比) | 予報対象の病害虫 (抜粋) | | |
|---|--|-------|---|----------------------|--|--|
| タマネギ | べと病 | 早生マルチ | やや多 | タマネギ べと病 一次感染株 | | |
| | | 中晩生 | やや多 | | | |
| 1. べと病 一次感染株(越年罹病株)は、年によっては1月頃から発生し始める。圃場をこまめに見回り、一次感染株を見た場合は、速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。 | | | | | | |
| 施設果菜類 | 1. 病害全般(灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内の湿度低減を図る。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせて防除を行う。 | | | | | |
| イチゴ (本圃) | うどんこ病 | やや少 |  | ハダニ類 | | |
| | 灰色かび病 | 並 | | | | |
| キュウリ | ハダニ類 | 多 | | | | |
| | アブラムシ類 | やや少 | | | | |
| | 1. ハダニ類 一部の圃場で多発している。春期はハダニ類がさらに増殖しやすく、防除が困難となるため、早期発見、早期防除に努める。薬剤防除の際は、薬剤抵抗性発達のおそれがない気門封鎖剤を活用する。(令和7年12月24日付け病害虫発生予察注意報第3号参照) | | | | | |
| | 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないよう対策をとる。(導入可能日数は総合防除計画参照) | | | | | |
| キュウリ | べと病 | 並 |  | 退緑黄化病 | | |
| | うどんこ病 | 並 | | | | |
| | 褐斑病 | やや多 | | | | |
| | アザミウマ類 | 並 | | | | |
| | コナジラミ類 | やや少 | | | | |
| 1. コナジラミ類: 退緑黄化病 退緑黄化病の発生が散見される。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を厳寒期も継続する。 | | | | | | |

| 作物名 | 病害虫名注1) | 1月の予想発生量注2) (平年比) | 予報対象の病害虫 (抜粋) |
|---|---------|----------------------|--|
| トマト | 葉かび病 | 並 |  黄化葉巻病 |
| | 灰色かび病 | 並 | |
| | コナジラミ類 | 多 | |
| 1. コナジラミ類：黄化葉巻病 黄化葉巻病の発生が増加している。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を厳寒期も継続する。耐病性品種でも感受性品種と同様に防除を実施する。 | | | |
| キャベツ | 菌核病 | やや少 |  キャベツ菌核病 |
| | 黒腐病 | 並 | |
| | アブラムシ類 | やや少 | |
| | チョウ目害虫 | やや少 | |
| 1. 菌核病 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。 | | | |
| キク | 白さび病 | 並 |  クロゲハケアザミウマ |
| | アザミウマ類 | 並 | |
| | アブラムシ類 | 並 | |
| | ハダニ類 | 並 | |
| | ハモグリバエ類 | 並 | |

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」も参照してください。

病害虫総合防除計画掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（-）：少発生、（-～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～+）：やや多発生、（+）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」をご参照ください（2ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

○1～2ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。

1月の気象条件

○病害虫の発生に関与する1月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和7年12月18日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

| 要素 | 1ヶ月予報における1月の気象予報（確率予報%） | | | 病害虫の発生に 関与する気象条件 (平年比) |
|-----|-------------------------|------------------|--------|------------------------------|
| | 低い(少ない) | 平年並 (佐賀市の平年値) | 高い(多い) | |
| 気温 | 20 | 30 (5.8°C) | 50 | 高い |
| 降水量 | 30 | 40 (54.1 mm) | 30 | 並 |

III. 1月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 18 圃場、防除員 4 圃場

調査日 : 12月16~19日

1. べと病

1) 予報の内容

【早生マルチ】発生量 : 平年よりやや多い

【中 晩 生】発生量 : 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1、図2)

【早生マルチ】 発生株率 : 0% (平年0%、前年0%)、平年比 : 並 <±>

【中 晩 生】 発生株率 : 0% (平年0%、前年0%)、平年比 : 並 <±>

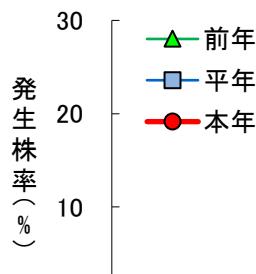


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

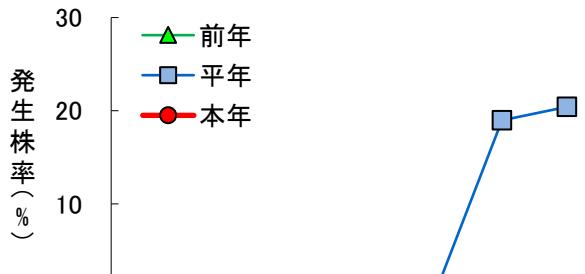


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いている。本圃の菌密度は高いと推察される。

〈±～+〉 (図3参照)

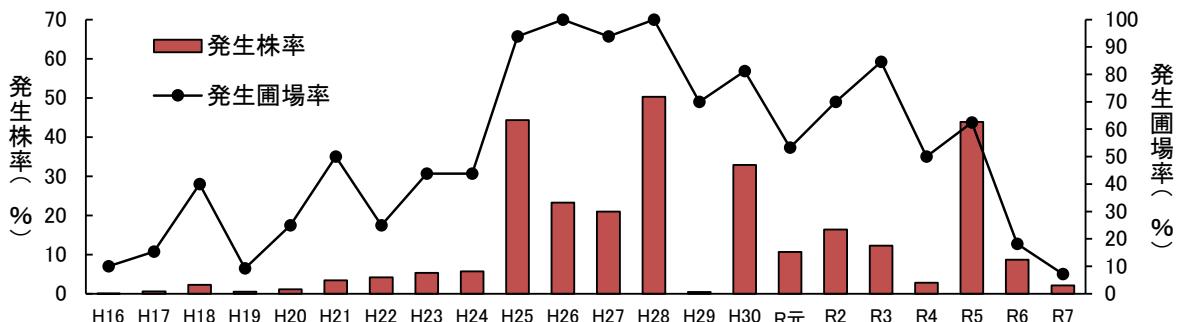


図3 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

(3) 1月の気象条件

気温は高く、降水量は並で、やや多発の条件 〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場をこまめに見回り、一次感染株を発見した場合は、速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出して処分する。

イチゴ (本園)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：12月 15～22 日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図 1 参照）

発生株率：31.3%（平年 17.7%、前年 9.3%）

平年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。

(2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏にいるハダニ類に確実に薬液がかかるように、株全体に十分量を丁寧に散布する。

(3) 薬剤の効果は圃場によって異なるため、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

(4) 天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は、天敵に影響の小さい薬剤による防除を行う。

(5) その他については令和 7 年 12 月 24 日付け病害虫発生予察注意報第 3 号参照。

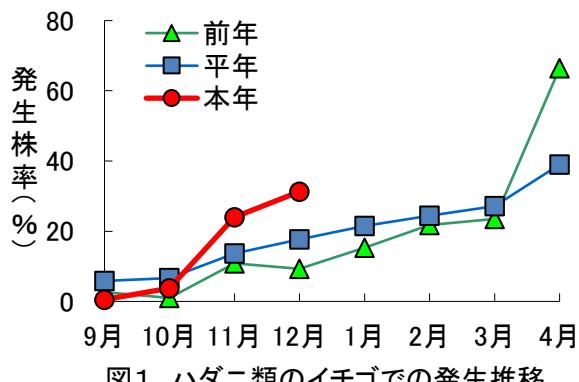


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 4 圃場、防除員 3 圃場
調査日：12月 15～19 日

1. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図 1 参照）

発生株率：14.3%（平年 8.7%、前年 7.5%）

平年比：並〈±〉

(2) 1月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難となるため、発生初期から防除を行う。

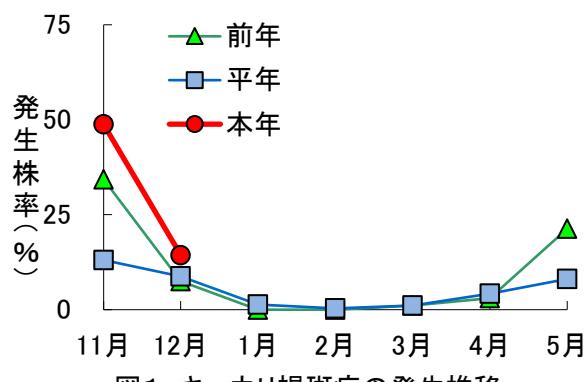


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：9.3%（平年5.9%、前年0%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 黄化えそ病の症状（新葉の黄化・葉脈透過、葉のモザイク・えそ斑点等）がみられる株は速やかに抜き取り、圃場外に持ち出して処分するとともに、媒介するアザミウマ類の継続的な防除を行う。

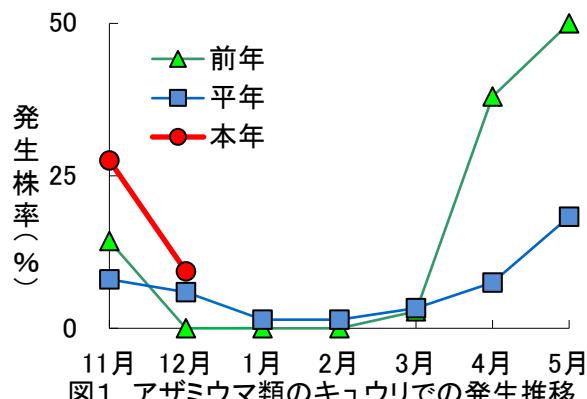


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：12月15～18日

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：15.0%（平年5.5%、前年16.0%）

平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) コナジラミ類の幼虫・蛹は中～下位葉に寄生していることが多いため、不要な葉は除去し、適切に処分する。

(2) ウィルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を厳寒期も継続的に実施する。

(3) 耐病性品種でも感受性品種と同様に防除を実施する。

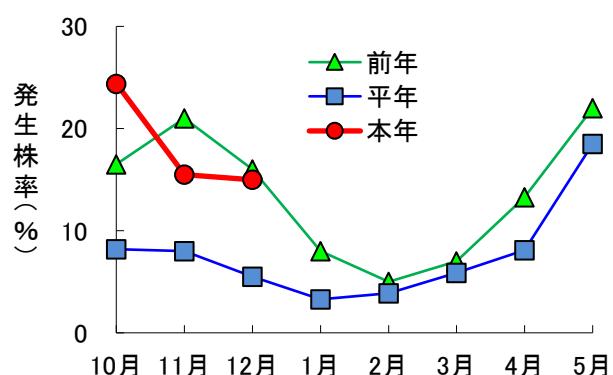


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査8圃場

調査日：12月15日～18日

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

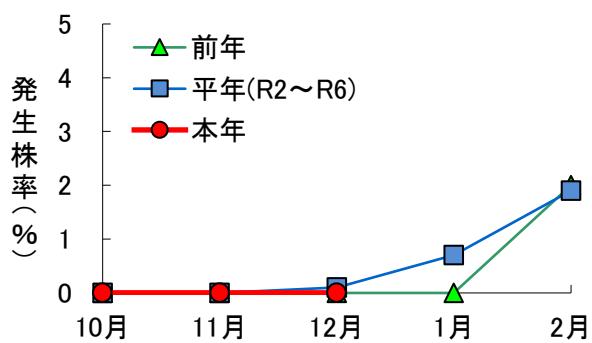


図1 キャベツ菌核病の発生推移

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率 : 0% (平年0.1%、前年0%)

平年比 : やや少 <−~±>

(2) 1月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 <±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中深くに埋設するなどして適切に処分する。

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査 6 圃場

調査日 : 12月 15~18日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量 : 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率 : 0% (平年 1.1%、前年 0%)

平年比 : 並 <±>

(2) 1月の気象予報

気温が高く、降水量が並でやや多発生の条件 <±~+>

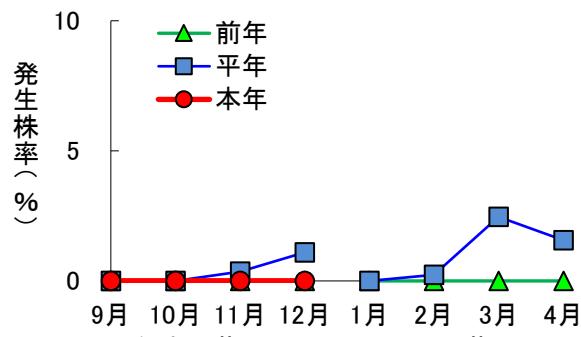


図1 キク白さび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から定期的に薬剤を散布する。

(2) 敷設する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

連絡先 : 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085

Mail nougyoujijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QR コード



防除計画 QR コード

